

2023 年 12 月 8 日

The Emerging Markets Weekly

米 11 月雇用統計の発表を控え軟調な動き

新興国市場:先週末 1 日のアジア時間の新興国通貨は軟調。FRB 高官による利下げけん制が引き続き重しに。KRW は前日比▲1.2%、TWD も値を下げた。欧米時間、米 11 月 ISM 製造業景気指数が市場予想を下振れ全面ドル売りに。MXN と ZAR は前日比+1.0%超上昇した。週初 4 日、アジア時間は引き続き新興国通貨は堅調。MYR や THB が上昇した。欧米時間、米金利に連れてドルも反発。商品市況の軟調も新興国通貨の下押し材料に。MXN と BRL は前日比▲1.0%超下落。5 日のアジア時間、中国の経済指標は市場予想を上振れるも、新興国通貨買いには繋がらず。KRW と IDR が売り優勢。欧米時間、米経済指標はまちまちな結果。米金利は低下も、ドルは買われた。新興国通貨は概ね下落した。RUB や ZAR が軟調。6 日、アジア時間の新興国通貨は大半が小幅に下落。THB が軟調。欧米時間、ECB の早期利下げ期待が高まりユーロに連れて東欧通貨は弱含んだ。中南米通貨は銅や鉄鉱石価格の上昇を好感し、値を伸ばした。MXN と BRL が上昇。7 日、アジア時間の新興国通貨は総じて下落。翌日に米 11 月雇用統計の発表を控え市場には慎重なムードが広がった。KRW は株式市場の軟調が重し。THB も下落。欧米時間、日本銀行のマイナス金利解除への期待の高まりを受け円が急騰。ドルの下落を受けてユーロに連れて東欧通貨は上昇。その後、ドルが買い戻される展開に中南米通貨は弱含んだ。MXN はメキシコ 11 月消費者物価指数(CPI)の結果も重しとなり前日比▲1.1%値を下げ、ZAR は前日比+1.0%上昇した。

アジア: 1 日、インドネシア 11 月 CPI は前年比+2.9%と市場予想を上回ったがインドネシア中央銀行(BI)の目標レンジ(+2~4%)には収まった。5 日発表の韓国 11 月 CPI は前年比+3.3%と市場予想を下振れた。同日発表のフィリピン 11 月 CPI は前年比+4.1%と市場予想を下回った。5 日、大手格付け会社は中国の信用格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」に変更した。7 日発表のタイ 11 月 CPI は前年比▲0.44%と 2 か月連続でマイナスを記録。同日発表の中国 11 月貿易収支は+683.9 億ドルの黒字、輸出は前年比+0.5%、輸入は同▲0.6%となった。今週は CNY の対ドルでの上昇が一服したほか、各国でのインフレ鈍化を受けて金利の先高観は後退し、アジア通貨はやや軟調な動きに。

中東欧・アフリカ: 4 日発表のトルコ 11 月消費者物価指数(CPI)は前年比+61.98%と前月から加速、市場予想は下回った。食品・輸送価格の上昇が全体を押し上げ 2022 年 12 月以来の高い伸び率となった。5 日公表の南アフリカ 7~9 月期実質 GDP 成長率は前年比▲0.7%と 4~6 月期からマイナスに転じ、市場予想より悪化した。この結果を受けて ZAR は下落した。

ラテンアメリカ: 5 日公表のブラジル 7~9 月期実質 GDP 成長率は前年比+2.0%と 4~6 月期から減速したものの、市場予想を上回りプラス成長を維持した。7 日発表のメキシコ 11 月 CPI は前年比+4.32%と市場予想を下回った。この結果を受け MXN は値を下げ、週間で▲1.6%の下落となった。

金融市場部
マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

長谷川 久悟

03-3242-7065

kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

欧州資金部

シニア為替ストラテジスト

中島 将行

masayuki.nakajima@mizuhoemea.com

市場概観(韓国)

11 月金融通貨委員会～先行き不透明感は強いが、インフレ抑制が最優先に

マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

韓国銀行(BOK)は11月30日、金融通貨委員会を開催し、政策金利(7日物レポ金利)を委員会メンバーの全会一致で3.50%に据え置くことを決定した(図表1)。据え置きは2月に利上げを停止してから7会合連続での決定となった。なお、ブルームバークの事前予想でも現状維持が優勢だった。

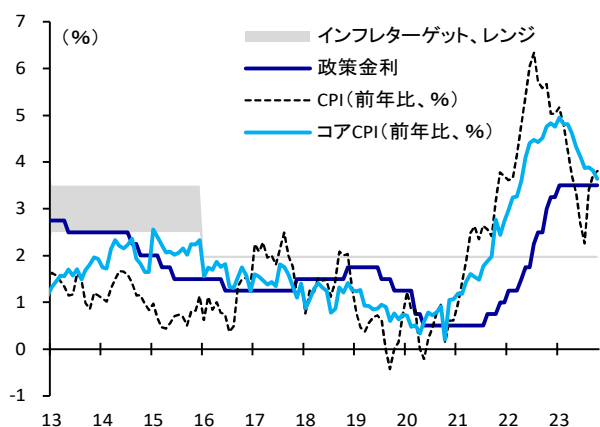
声明文では、世界的な金融引き締めの下、欧米や中国をはじめ経済成長が今後鈍化していく可能性に言及。国内経済について、下半期に半導体需要に底打ちの動きが出たことで持ち直しつつあるとしたが、内需の減速が目立っており、年間の成長率は前年比+1.4%に留まる見通しを維持した(図表2)。24年は段階的な外需の回復を見込む中で、同+2.1%の成長を見込んでいる。しかしながら、BOKは中東情勢の悪化が長続きするケース、製造業の持ち直しが前倒しになるケースという複数のシナリオを準備しており、確度は今のところ高くない印象を受ける。

一方で、インフレの長期化が韓国経済の重しとなる可能性がある。直近10月の消費者物価指数(CPI)は前年比+3.8%と3か月連続で騰勢を強めた(図表3)。その要因は食料品価格の上昇による点が多いが、先行きの資源価格の不透明性が強く、失業率が21世紀に入り最低を更新する中で労働コストの高止まりが懸念されるなど、潜在的なインフレリスクも存在している。BOKは段階的にインフレが減速していくことを基本線としているが、前回会合に続いてインフレの抑制には従前の予想よりも時間を要する可能性にも言及した。なお、今回更新の見通しでは24年の予想を同+2.6%と従前の同+2.4%から上方修正した。

高金利下における景気減速懸念とインフレ再加速への懸念に挟まれる状況下、BOKの政策運営も舵取りが難しくなっている。今回の決定について、李総裁はインフレが収束すると確信できるまで現行の金利水準を維持する方針を示した。こうした点を踏まえれば、BOKは依然景気支援よりもインフレ抑制を優先させているように見える。その一方で、追加利上げが必要となる可能性を示唆している委員会メンバーは前回の6人から4人に減少しており、利上げサイクルが着実に終了に向かっていくことも間違いではなさそうだ。結論、BOKの政策姿勢はこれまでは「利上げ含みの現状維持」だったが、「政策効果を確認するための現状維持」に変わってきていると整理したい。

政策決定自体に大きなサプライズなく、KRW相場の反応は限定的だったが、11月は米金利低下に起因するドルの軟化に伴い持ち直しが見られた(図表4)。もともと、12月FOMCにおいてFRBはタカ派路線を維持すれば足許のドル高の調整も一服し、年末まで一進一退の相場となると考えられる。一方で、半導体市況もようやく上向きつつあり、年明け以降には半導体需要も持ち直して韓国の輸出も勢いを取り戻すことが期待される(図表5,6)。本欄では貿易収支の改善を通じたKRWの需給環境の好転を評価し、24年にはじりじりと値を戻す展開を予想している。

図表 1: 政策金利とインフレ率



出所: BOK、CEIC、みずほ銀行

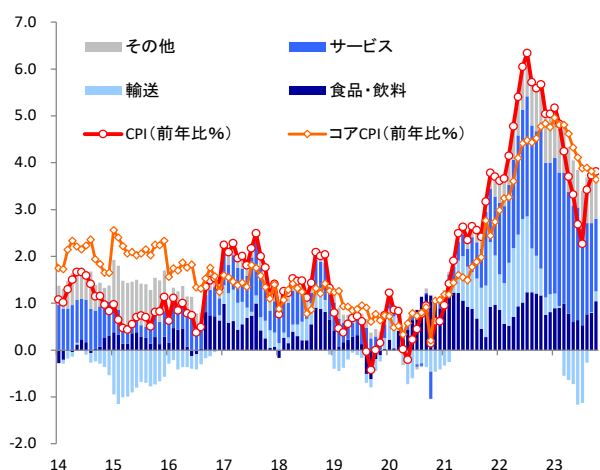
図表 2: BOK 経済・物価見通し

	2023年	2024年		2025年	
	(前年比) 通年	上半期	下半期	通年	通年
実質GDP成長率	1.4%	2.2%	2.0%	2.1%	2.3%
民間最終消費支出	1.9%	1.5%	2.2%	1.9%	2.2%
設備投資	-0.4%	0.8%	7.5%	4.1%	3.7%
知的財産投資	2.1%	2.8%	2.1%	2.4%	3.4%
建設投資	2.7%	0.5%	-3.7%	-1.8%	-0.7%
輸出(財)	2.3%	4.1%	2.7%	3.3%	3.3%
輸入(財)	-0.2%	0.7%	4.1%	2.4%	2.9%
消費者物価指数(CPI)	3.6%	3.0%	2.3%	2.6%	2.0%

(数値は全て前年比)

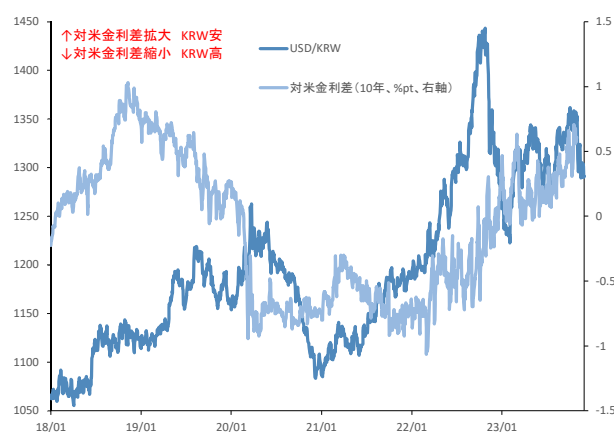
出所: BOK、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価指数の推移(前年比%, %ポイント)



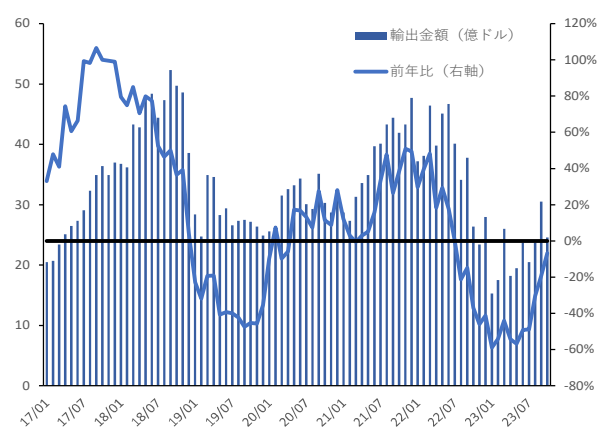
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: 対米金利差(米国－韓国)と KRW 相場動向



出所: Macrobond、みずほ銀行

図表 5: 半導体メモリの輸出状況



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 6: BOK 経常収支見通し

	2023年	2024年		2025年	
	(10億ドル) 通年	上半期	下半期	通年	通年
経常収支	30.0	13.0	36.0	49.0	59.0
(8月時点)	27.0	15.7	30.3	46.0	
貿易収支(財)	25.4	19.5	37.5	57.0	75.3
(8月時点)	22.4	23.7	32.7	56.4	
サービス収支	-23.6	-10.5	-11.4	-21.9	-29.3
(8月時点)	-23.1	-10.6	-9.1	-19.7	
第一次所得収支	28.2	4.0	9.9	13.9	13.0
(8月時点)	33.0	5.8	10.4	16.2	

出所: BOK、みずほ銀行

市場概観(メキシコ)

大統領選挙アップデート～女性候補同士の一騎打ちに～

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

メキシコでは、来年 6 月に大統領選挙を控えている。今月 2 日、3 人の候補者のうちの一名であった、ガルシア・北部ヌエボレオン州知事が出馬を取りやめることを発表した。よって、大統領選挙は、国家再生運動(MORENA)を中心とした与党連合のシェインバウム・元メキシコシティ市長と、野党連合が擁立した、国民行動党(PAN)のガルベス・上院議員の一騎打ちとなる。この 2 名はいずれも女性であり、来年には同国初の女性大統領が誕生する見込みだ。本欄では、2 人の掲げる政策や現状の選挙戦に向けた動向に加え、アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール・現大統領(通称アムロ大統領)による足許の動きについて取り上げたい。

まず初めに、足許の世論調査を確認したい。図表 1 では、ORACULUS が主要な世論調査をもとに集計した支持率の推移を示しているが、シェインバウム氏が高い支持率を維持し続けていることがわかる。反対に、ガルシア氏の支持率はせいぜい 10%程度で低空飛行しており、この状態からの当選は絶望的とみてよい。立候補の取り下げは、賢明な判断だろう。一方、ガルベス氏の支持率も決して高いとは言えず、選挙戦は厳しいものになるだろう。そもそも、アムロ大統領の人気は非常に高く、正当な後継者たるシェインバウム氏が有利になるのは必然の流れだ。

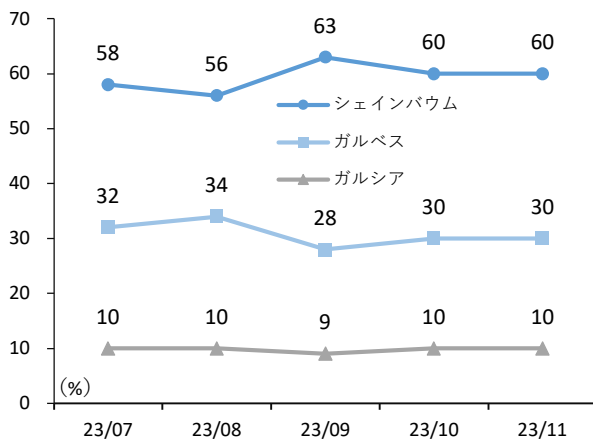
次に候補者 2 人の掲げる政策について簡単に確認したい。図表 2 と 3 では、両候補の掲げる政策に関し、目立ったものをまとめている。全体を通して真正面から対立するような政策こそ見られないものの、節々には現状路線への支持や、反対に路線変更が確認できる。例えば、シェインバウム氏の掲げる最低賃金の引き上げは、アムロ政権の最大の注力分野であり、最も大きな功績でもある。この流れの継続を明確に支持していることから、シェインバウム氏は「現状維持」を志向していると評価できる。他方で、ガルベス氏に関しては、現状路線を真向から否定するような政策こそ掲げていないものの、一部では路線変更を掲げている。具体的には、空港建設や鉄道プロジェクトなど、採算性の低い事業への無駄な支出を減らすことを掲げている。これらはアムロ政権にとって一大プロジェクトであり、明確な批判だ(そもそも、すでに頓挫したものも多い)。治安面に関しても、現状のような軍部主導ではなく、文民統制の効いた警察組織の創設を訴えている。とはいえ、志向する政策の違いで選挙結果が左右される展開は現状考えにくく、アムロ政権が大統領選挙に向けどのようにふるまうかにかかっているだろう。アムロ政権への批判が高まれば、ガルベス氏の逆転当選も十分にありうる話だ。

かかる中、アムロ大統領は 1 日に、2024 年の最低賃金を+20%引き上げると発表した。アムロ政権はいまでも引き上げを積極的に行ってきたおり、2018 年 12 月の就任時と比較すれば、最低賃金はすでに 1.85 倍になっていた(10 月時点)。賃金上昇は物価高騰のペースを上回っており、足許では大きなプラス圏を記録している(図表 4)。来年にはディスインフレがさらに進行するであろうことを踏まえれば、実質賃金は当面の間堅調な推移を継続できそうだ。逆に言えば、来年の+20%の最低賃金の引き上げは、物価の見通しから考えれば過剰な可能性が高い。大統領選挙を見据え、シェインバウム氏を含めた与党を後押しする意図があったと邪推されても仕方がないだろう。

むしろ、最低賃金の過度な引き上げは、中長期的に見れば経済にとってマイナスになる可能性がある。メキシコは、地政学な優位性から、近年投資先としての注目が高まっていることは過去の本欄でも指摘した通りだ。米国の輸入金額におけるシェアも、中国などに代わって順調に伸ばしている。いわゆる、グローバルなニアショアリングやデリスキングの一環だ。ただし、メキシコが投資先・進出先として魅力的なのは、なにも地政学的な観点だけではない。割安な労働力も、同国の最大の優位性の一つだ。もし今後も最低賃金が段階的に引き上げられれば、「割安な労働力」といった強みを失う可能性も十分にある。そうなれば、対内直接投資は失速しかねないだろう。もちろん、域内企業の生産活動にとっても重しとなりかねない。

現状、大統領選挙はシェインバウム氏が勝利する可能性が高い。そして、基本的にはアムロ大統領の政策を引き継ぐかたちでの政策運営が見込まれる。そうした展開になれば、短期的には、金融市場にとっては現状維持の安心感から好意的に認識される可能性が高い。もっとも、中長期的には、上述のような賃金政策などがリスク要因として存在しており、経済や金融市場への影響度合いは今後も注視していく必要がある。

図表 1: 大統領選挙候補者の支持率推移



出所: ORACULUS、みずほ銀行

図表 2: シェインバウム氏の掲げる政策

教育の拡充
最低賃金の引き上げ、労働者の権利強化
公共投資の奨励
公衆衛生の改善
住宅政策の強化
女性や先住民の権利向上
地理的優位性を用いた投資誘致の促進
科学技術の発展
クリーンエネルギーの活用
司法改革

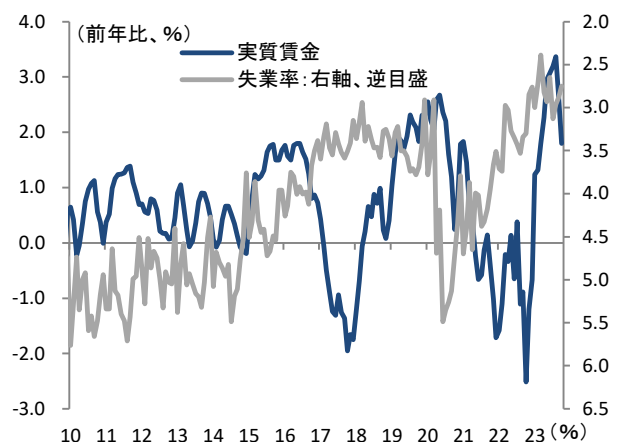
出所: 各種報道、みずほ銀行

図表 3: ガルベス氏の掲げる政策

技術訓練の提供による人的資本の強化
インフラ整備のための基金の復活
採算性の低い、大規模インフラ投資からの撤退
社会保障の拡充
貧困と不平等の削減
再生エネルギーへの集中
文民統制を備えた国家警察の創設
財政健全化路線の踏襲
投資家保護のための法の整備

出所: 各種報道、みずほ銀行

図表 4: 実質賃金と失業率の推移



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

※実質賃金は前方 3 か月移動平均

市場概観(新興国)

製造業部門のデフインフレは順調

金融市場部
長谷川 久悟
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

S&P Global 社が集計するグローバル購買担当者指数(PMI)によれば、11 月製造業 PMI は 49.3 と 10 月(48.8)からは上昇も、15 か月連続で中立水準(=50)を割り込んでおり、製造業の景況感は明確に下向きだ。先進国(47.5→47.7)は構成項目が全体的に上昇も、14 か月連続で中立水準割れを記録した。片や、新興国(50.1→50.9)は生産や雇用を中心に上昇し、10 か月連続で中立水準超えを維持した(図表 1、2)。また、グローバル非製造業 PMI(50.4→50.6)は 6 か月ぶりに上昇。内訳を確認すると、先進国(49.8→50.0)、新興国(51.7→52.1)いずれも上昇した。

これらを合わせたコンポジット PMI は 50.4 と前月(50.0)から 6 か月ぶりに上昇し、10 か月連続で中立水準超えを維持。世界経済の実質 GDP 成長率は 7~9 月期に +3.15%(前期比年率)と、前四半期から伸びが加速した(図表 3)。PMI の推移を確認する限り、足許は減速基調に切り返しているものと考えたい。

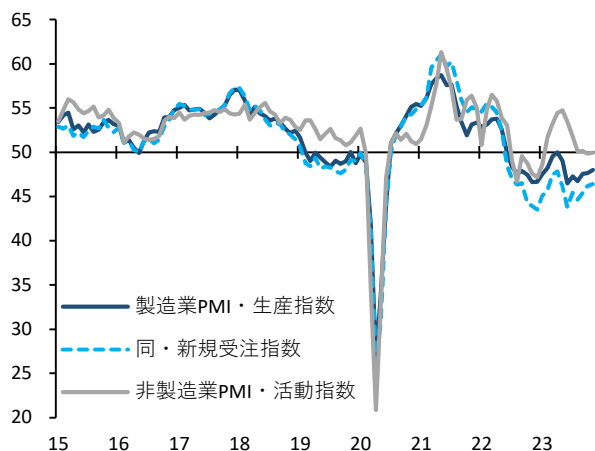
11 月グローバル製造業 PMI の特徴は、デフインフレの順調さだろう。仕入れ価格指数、出荷価格指数いずれも、23 年中ごろ以降反転上昇傾向にあったものの、ここもとには明確に下落基調に回帰しつつある。先進国・新興国いずれも、この傾向は変わらない(図表 4)。もちろん、いずれも中立水準超えを維持しているものの、標準化すればマイナス圏で推移しており、着実なインフレ鈍化が続いている。サービス分野ではもう一段の需要緩和が必要なものに見えるが、製造業部門においてはデフインフレの自信を深めてよいだろう。

製造業 PMI の構成指数別では、全ての項目が PMI の上昇に寄与した。生産指数は、新興国が上昇をけん引した(図表 5)。5 月以来の中立水準復帰も目前だ。新規受注も新興国主導で上昇(図表 6)。ただし、17 か月連続の中立水準割れは継続しており、短期の先行きは依然弱い状態が続いている。また、購買品在庫も、新興国が上昇をけん引(図表 7)。とはいえ、全体では 13 か月連続で中立水準割れを記録しており、在庫取り崩しの流れは継続中だ。加えて、雇用指数も新興国で大きく上昇した(図表 8)。過去の本欄で、10 月に雇用指数が大きく低下したことに言及したが、一過性に終わるかを注視したい。なお、入荷遅延指数(逆インデックス)は、ほぼ横ばいだった。

個別の新興国では、トルコ製造業 PMI の軟調推移に着目したい。11 月には 47.2 と 10 月(48.4)から低下し、1 年ぶりの低水準に沈んでいる。5 か月連続で中立水準割れを継続しており、製造業の景況感は明確に軟調だ。詳細を確認すると、新規輸出受注は 3 か月連続で上昇しているのにも関わらず、新規受注は前月に続き低下していることが注目に値する。これはすなわち、外需の先行きは悲観姿勢が後退している一方で、内需の下押し懸念が非常に強くなっていることを示唆する。トルコ中央銀行(TCMB)は 11 月の金融政策委員会で、近い将来の利上げ打ち止めを示唆したが、内需の減速懸念はこの動きを支持しているように見える。

(注)各国・地域別の PMI のグラフについては、12 月 6 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 先進国



出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 2: 新興国



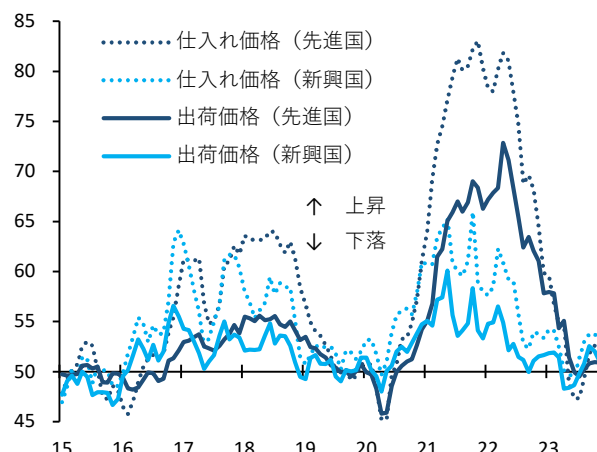
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 3: グローバルのコンポジット PMI と GDP 成長率



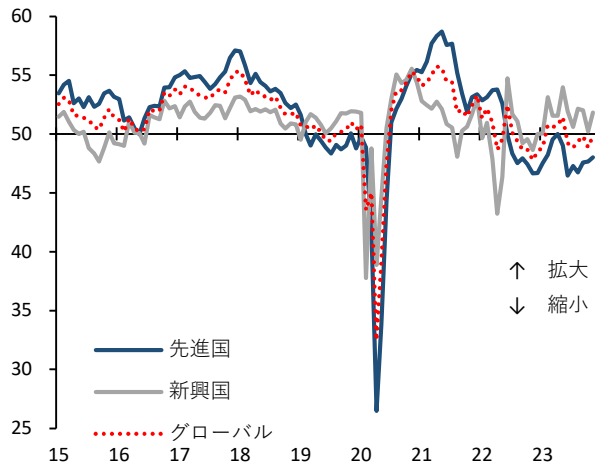
出所: S&P Global、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 4: 製造業 PMI・価格指数



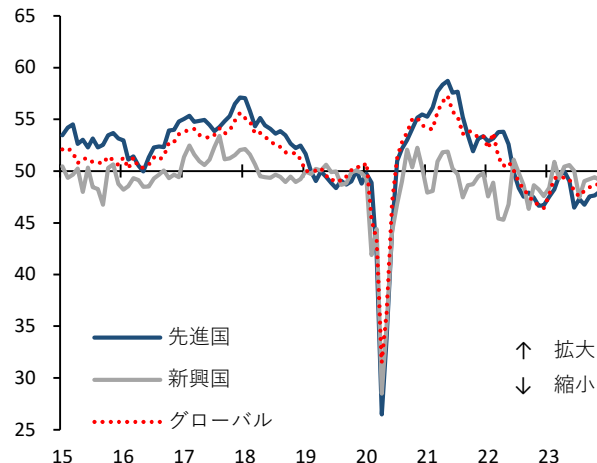
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 5: 製造業 PMI・生産指数



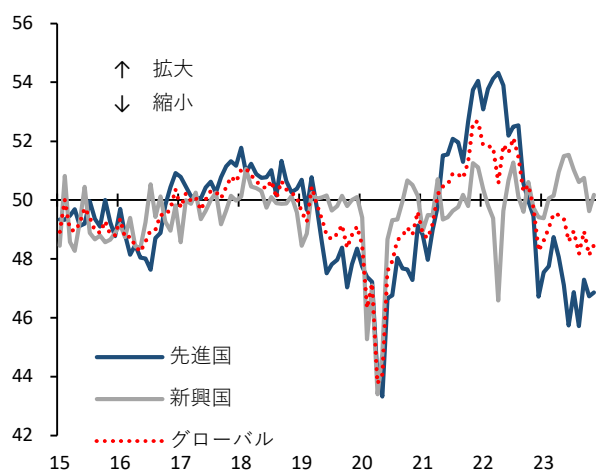
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 6: 製造業 PMI・新規受注指数



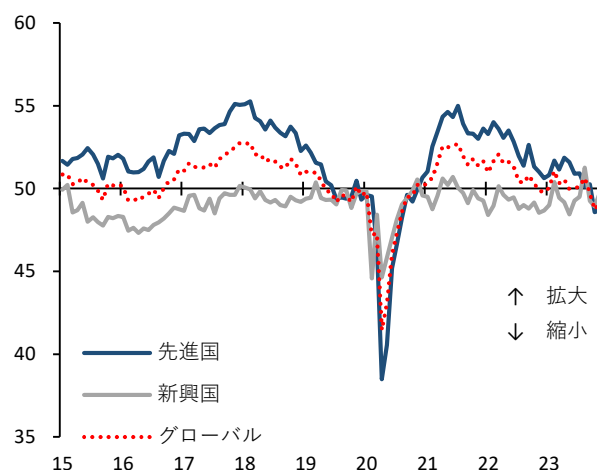
出所: S&P Global、みずほ銀行

図表 7: 製造業 PMI・購買品在庫指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

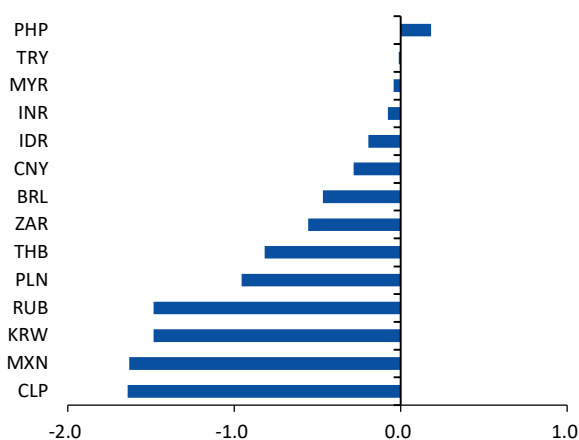
図表 8: 製造業 PMI・雇用指数



出所: S&P Global、みずほ銀行

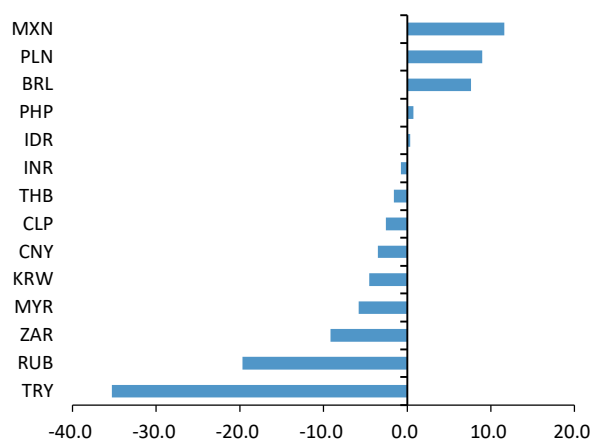
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



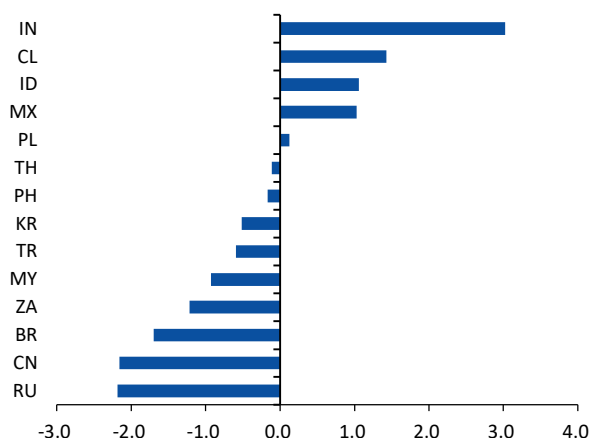
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



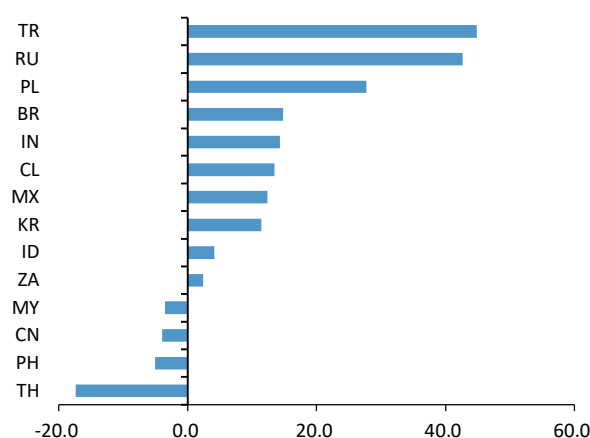
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



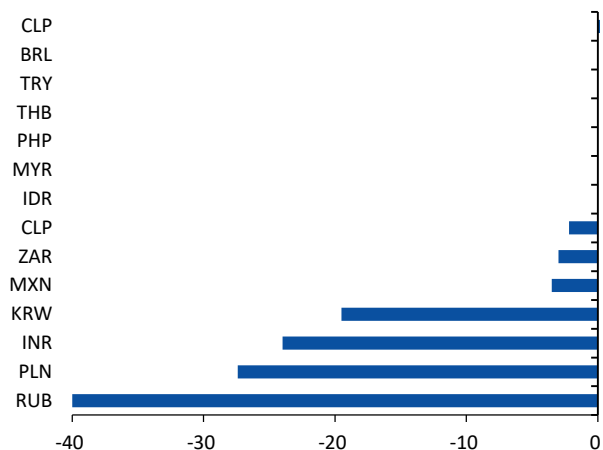
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

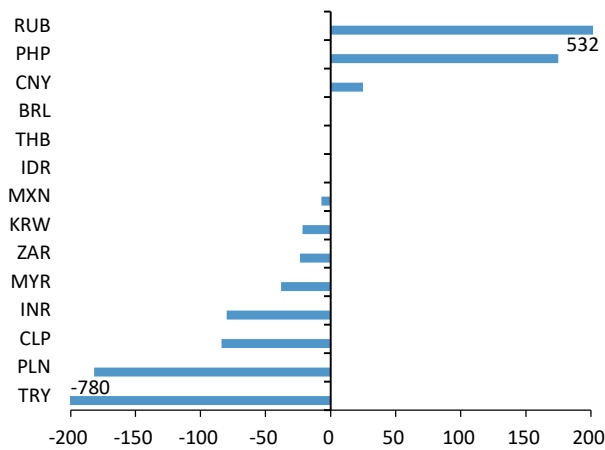
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)



注: データの都合によりタイ、ブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

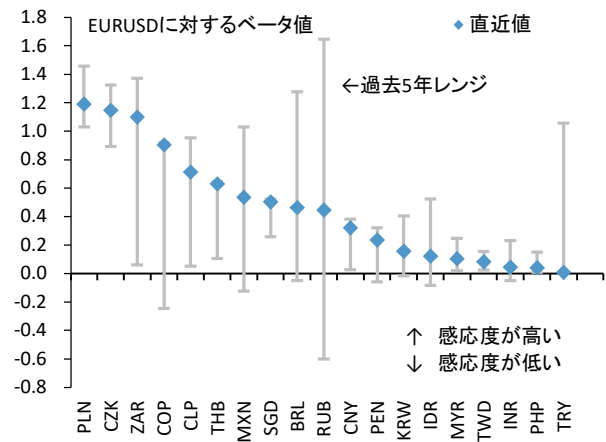
チャート集

主要新興国への証券投資(4 週間移動平均)



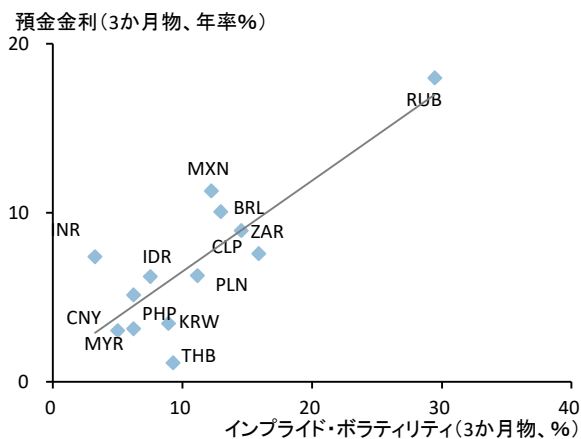
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM 通貨(対ドル)の EURUSD に対する感応度(過去 12 か月)



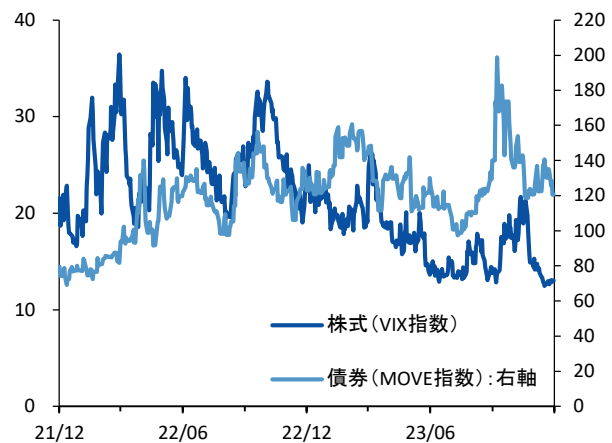
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



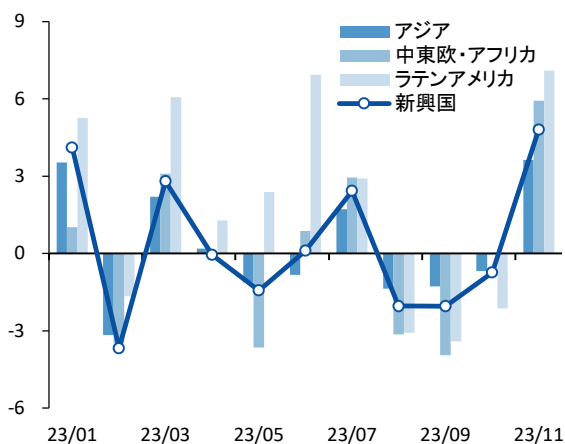
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX 指数、MOVE 指数)



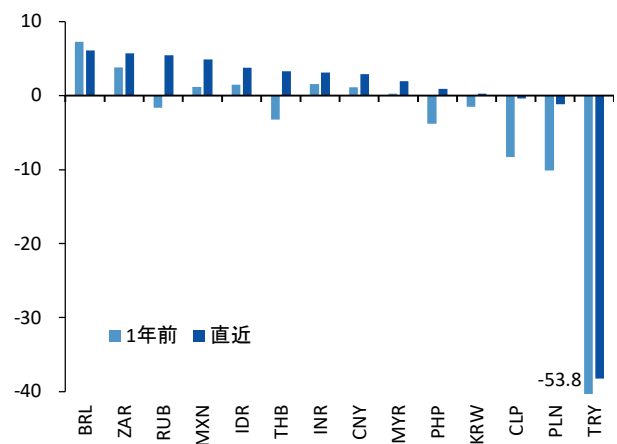
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10 年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
12月5日 (火)	韓国	GDP(前年比)	1.4%	1.4%	1.4%	--
5日 (火)	韓国	CPI(前年比)	3.5%	3.3%	3.8%	--
5日 (火)	フィリピン	CPI YoY 2018=100	4.3%	4.1%	4.9%	--
5日 (火)	中国	Caixin中国PMIサービス業	50.5	51.5	50.4	--
7日 (木)	タイ	CPI(前年比)	-0.3%	-0.4%	-0.3%	--
7日 (木)	中国	貿易収支	\$55.30b	\$68.39b	\$56.53b	--
8日 (金)	韓国	国際収支:経常収支	--	--	\$5420.7m	--
8日 (金)	インド	RBI政策金利	6.50%	--	6.50%	--
9日 (土)	中国	CPI(前年比)	-0.1%	--	-0.2%	--
9日 (土)	中国	PPI(前年比)	-2.8%	--	-2.6%	--
11日 (月)	マレーシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	-0.5%	0.2%
12日 (火)	フィリピン	貿易収支	-\$3600m	--	-\$3511m	--
12日 (火)	インド	鉱工業生産(前年比)	--	--	5.8%	--
12日 (火)	インド	CPI(前年比)	--	--	4.9%	--
13-15日	インド	輸出(前年比)	--	--	6.2%	--
13-15日	インド	輸入(前年比)	--	--	12.3%	--
14日 (木)	フィリピン	BSP翌日物借入金利	--	--	6.50%	--
14日 (木)	台湾	CBC指標金利	--	--	1.875%	--
15日 (金)	インドネシア	貿易収支	--	--	\$3480m	--
15日 (金)	中国	鉱工業生産(前年比)	5.7%	--	4.6%	--
15日 (金)	中国	小売売上高(前年比)	12.6%	--	7.6%	--
15日 (金)	中国	固定資産投資(除農村部/年初来/前年比)	3.0%	--	2.9%	--
15日 (金)	フィリピン	Overseas Cash Remittances YoY	--	--	2.6%	--
中東欧・アフリカ						
12月4日 (月)	トルコ	CPI(前年比)	62.6%	62.0%	61.4%	--
5日 (火)	南ア	GDP(前年比)	-0.1%	-0.7%	1.6%	--
7日 (木)	南ア	経常収支	-111b	-19b	-161b	--
8日 (金)	ロシア	CPI(前年比)	7.5%	--	6.7%	--
11日 (月)	トルコ	経常収支	--	--	1.88b	--
11日 (月)	トルコ	鉱工業生産(前年比)	--	--	4.0%	--
12日 (火)	南ア	製造業生産(季調前/前年比)	--	--	-4.3%	--
13日 (水)	南ア	CPI(前年比)	--	--	5.9%	--
13日 (水)	南ア	小売売上高(実質値、前年比)	--	--	0.9%	--
14日 (木)	ロシア	GDP(前年比)	--	--	5.5%	--
14日 (木)	南ア	PPI(前年比)	--	--	5.8%	--
15日 (金)	ロシア	主要金利	--	--	15.00%	--
ラテンアメリカ						
12月4日 (月)	ブラジル	経常収支	-\$827m	-\$230m	-\$1375m	--
5日 (火)	ブラジル	GDP(前年比)	1.8%	2.0%	3.4%	--
6日 (水)	ブラジル	純債務対GDP比	59.9%	60.0%	60.0%	--
7日 (木)	メキシコ	CPI(前年比)	4.4%	4.3%	4.3%	--
12日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA(前年比)	--	--	4.8%	--
12日 (火)	メキシコ	鉱工業生産(季調前/前年比)	--	--	3.9%	--
14日 (木)	ブラジル	SELICレート	--	--	12.25%	--
14日 (木)	ブラジル	小売売上高(前年比)	--	--	3.3%	--
15日 (金)	メキシコ	オーバーナイト・レート	--	--	11.25%	--

注: 2023 年 12 月 8 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2023年 1～11月(実績)	SPOT	2023年 12月	2024年 3月	6月	9月	12月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	6.6910 ~ 7.3503	7.1487	7.10	7.05	7.00	7.00	6.95
香港ドル (HKD)	7.7861 ~ 7.8500	7.8111	7.81	7.80	7.80	7.79	7.78
インドルピー (INR)	80.883 ~ 83.478	83.358	82.9	83.5	84.5	83.5	82.0
インドネシアルピア (IDR)	14565 ~ 15969	15515	15400	15500	15710	15520	15400
韓国ウォン (KRW)	1216.30 ~ 1363.67	1325.44	1310	1290	1280	1270	1250
マレーシアリングギ (MYR)	4.2250 ~ 4.7937	4.6742	4.69	4.71	4.73	4.68	4.61
フィリピンペソ (PHP)	53.628 ~ 57.084	55.304	56.0	56.5	56.9	56.0	55.2
シンガポールドル (SGD)	1.3032 ~ 1.3764	1.3393	1.34	1.35	1.38	1.35	1.33
台湾ドル (TWD)	29.608 ~ 32.509	31.486	31.5	31.0	30.6	30.2	29.8
タイバーツ (THB)	32.57 ~ 37.24	35.17	35.5	35.8	36.3	35.2	34.2
ベトナムドン (VND)	23415 ~ 24620	24281	24400	24300	24500	24100	24000
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	67.0415 ~ 102.3371	92.3958	85.0	83.0	84.0	85.0	86.0
南アフリカランド (ZAR)	16.6950 ~ 19.9204	18.7562	19.5	20.0	19.8	19.6	19.4
トルコリラ (TRY)	18.4339 ~ 28.9547	28.9235	29.0	30.0	29.0	28.0	27.0
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.6967 ~ 5.4798	4.9058	5.00	5.02	5.08	5.10	5.10
メキシコペソ (MXN)	16.6262 ~ 19.5882	17.4684	17.6	17.9	18.2	18.4	18.5
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	18.793 ~ 20.945	20.068	20.70	20.71	20.71	20.57	20.43
香港ドル (HKD)	16.295 ~ 19.457	18.447	18.82	18.72	18.59	18.49	18.25
インドルピー (INR)	1.559 ~ 1.823	1.730	1.77	1.75	1.72	1.72	1.73
インドネシアルピア (100IDR)	0.831 ~ 0.975	0.929	0.955	0.942	0.923	0.928	0.922
韓国ウォン (100KRW)	9.915 ~ 11.674	10.872	11.22	11.32	11.33	11.34	11.36
マレーシアリングギ (MYR)	29.106 ~ 32.387	30.986	31.34	31.00	30.66	30.77	30.80
フィリピンペソ (PHP)	2.325 ~ 2.715	2.635	2.63	2.58	2.55	2.57	2.57
シンガポールドル (SGD)	96.55 ~ 112.24	107.59	109.38	108.15	105.07	106.43	106.93
台湾ドル (TWD)	4.205 ~ 4.755	4.557	4.67	4.71	4.74	4.77	4.77
タイバーツ (THB)	3.770 ~ 4.290	4.097	4.14	4.08	3.99	4.09	4.15
ベトナムドン (10000VND)	0.5430 ~ 0.6235	0.5965	0.60	0.60	0.59	0.60	0.59
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	1.422 ~ 1.948	1.560	1.73	1.76	1.73	1.69	1.65
南アフリカランド (ZAR)	6.909 ~ 8.337	7.683	7.54	7.30	7.32	7.35	7.32
トルコリラ (TRY)	5.063 ~ 7.482	4.975	5.07	4.87	5.00	5.14	5.26
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	23.723 ~ 31.212	29.337	29.40	29.08	28.54	28.24	27.84
メキシコペソ (MXN)	6.651 ~ 8.778	8.249	8.35	8.16	7.97	7.83	7.68

注: 1. 実績の欄は 2023 年 11 月 30 日まで。SPOT は 12 月 8 日の 6 時 50 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。